

きらきらひかる

追っては追われては

彼女も光をもてあそぶ

指先のおしゃまなくねりで

肩の曲線のどっしりと落ちてゆく幹で

露出したたおやかな皮膚は

呼吸をするたび膨れてはへこみ

影ができては光をつくり

幾度も静止することはない

貴方をカメラで撮ろうとしたら

その画面はどこかがかならずブレている

均等な静止をすることができない

そのことがただほんとうに

貴方と貴方の世界を映した

そう言えることになるのだろう

その皮膚はくびれは誰の手にも触れられるためになく

ゆつくりとでもどれだけ時間がかかっても

どんなに大きな手を持った

王さまの指圧をもはね返すだろう

そこに横たえられた裸は

風と火と花と この大きな星にのみ

差し出されたからだ

答えるように地面が大きくあくびをする

血のとどいた枝葉がふるえ

鳥がぱつ と羽をはばたく

彼女はそのふるえに気がつく

ちいさく右のこめかみが痛む

指で鎮めればまた陽がのぼる